

# 学校だより 熱 砂

令和元年 12月 19日  
発行責任者：校長  
和田 政男

## 2学期終了！充実した冬休みを

授業日数が79日という、1年で最も長い2学期が、19日の終業式をもって終わりました。私は観ることが出来ませんでした。残された記録を読むとどれほどの感動を味わったかを知ることができる熱沙祭や、楽しさがいっぱい、思い出いっぱいの砂漠キャンプやデイキャンプなど、皆さんの心を揺さぶり、大きな成長を促す大きなイベントがたくさんあった2学期でした。私たち教職員も、児童・生徒の多くの皆さんも満足し、成就感をもって終わられる2学期だったのではないのでしょうか？

明日からの冬休み、家庭に帰り、家庭の中で学ぶ期間です。机の前に座り、教科の学習をするばかりが学びではありません。家族とともに出かける旅先で、新年を迎える節目を通して、季節の行事・習わしの中で、学べることはたくさんあります。豊かな経験をたくさん積み、またひとまわり大きくなって3学期の始業式に元気な姿で登校してください。

皆様、どうぞ良いお年を！

### 保護者アンケートへのご協力 ありがとうございました。

11月末に行わせていただきました「学校自己評価」保護者アンケートへのご協力、まことにありがとうございました。アンケートの集計結果は3月に学校のホームページに掲載させていただきます。

学校評価は学校改善の大きなヒントであり、いただいたご意見は次年度の学校経営方針の策定に活かしてまいります。

今回の学校だよりでは、いただいたご質問、ご意見への回答を掲載いたします。校長が答えたものを職員がチェックしたうえで回答いたしますので、校長の私見ではなく学校としての方針と解釈していただいて構いません。いただいたご意見のうち、対応できないものはその理由を記し、今後取り入れたいご意見についてはその方向性についてお応えいたします。現時点では曖昧なものもあるかもしれませんがご容赦ください。

- 教科指導内容について、担当の先生の裁量に任せすぎていると思います。
- 生徒は様々な人格と触れ合うことにより自分の人格を高める面もあります。教師により教材の解釈や指導の重点が異なることはありますがいずれも学習指導要領に定められた内容を逸脱することはないことになっています。もしそうでないならば、具体的な部分をお知らせいただければ確認し改めます。一方、職員との面談の中からも「教師個々の頑張りから、全体の統一感、チームワーク

へ」という課題も指摘されていることから、いただいたご意見も参考に、学校改善に取り組みたいと思います。

- 上記項目中の「こころの教育」や「トラブルへの対応」などについては、実際にどのような活動やとりくみがなされているのか、あまりわかりません。(当事者にならないとわからないのかもしれませんが。アンケートとしては回答が難しいです。)
- 子どもたちが100人以上も集団で暮らしている学校ですので、毎日のように小さなトラブルはあります。保護者に伝えるべきことは担任よりご家庭に連絡を入れさせております。学校の生徒指導の姿勢として、「トラブルがあるのが問題なのではない。トラブルにうまく対応できるかが問題なのだ」ということを確認しております。「トラブルをも子どもの成長の糧にする」ということです。安全に関わるトラブルは未然に防がなければなりません。友達関係のトラブルなど、「我が子にどう働きかければ、この子の成長につながるか」を視点とした対処を、学校と連携してご家庭でも行っていただければ有難いと存じます。
- 図書室の本の数を増やしていただけると、子どもたちがもっと読書に興味をもつと思う。
- 図書の充実、整理についても課題の一つとして指摘されております。現在、図書ボランティアの皆さんにご活躍いただいております。3学期に図書ボランティアの皆さんからお話を伺う機会を設け

させていただき、そこから図書室経営の改善案を探っていきたいと思います。

- 保護者会の全体会や行事の際、マイク音声がとても聞き取り辛い。
- 体育館の音の響き方に原因があるのか、ポータブルのアンプ・スピーカーに問題があるのか。少し探ってみたいと思います。校内放送施設については春休み中に全部入れ替えをする工事が予定されています。ポータブルの放送装置にまで、今回は手が回りませんが、業者からのコメントはとりたいたいと思います。
- 教育内容についてはあまりにも日本の学校と異なり、自由（先生方）が多い。親しみやすさの中にはやはり教師としての線引きは必要。子供達に伝えるべきこと、伝えてはならないことなど先生方できちんと統一すべき。また、子どもたちが先生のいないところで起きている事、やはり見えないところにトラブルが隠れており、高学年ともなると時間をとられるのが嫌だと話さないときめていることもある。子ども同士で解決できていれば良いが、隠れた場所で何が起きているか今一度先生方で話し合って欲しい。また、学年だよりやHP、交流会等、日本ではなかなかできない事をさせていただいております、とても感謝しております。お忙しい中、子どもたちにご指導いただいていること重々承知で書かせていただきました。失礼をお許してください。
- 校長としても、本来、ご指摘のような部分に留意して学校経営すべきであり、また、していきたくとも思っております。真摯に受け止めます。
- 学校の信頼を1日も早く取り戻せるようにお願いします。
- 校長の重要課題の一つであると認識しております。
- 学校からのお便りをEmailで送る際、件名に内容を記載して下さい。現在学校から届くEmailの全ての件名が同じなので、検索ができず困っています。
- 担当とご指摘の事項を共有し、改善策を講じました。ご指摘ありがとうございます。
- 人数や学校の規模的に難しいとは思いますが、クラブ活動の種類を増やせたら良いと思います。例

えばバドミントン、卓球、ダンス、太鼓、ESS、家庭科クラブ etc. …

- ご希望は承りました。が、お気づきの通り、実現は難しいと感じております。一方で、アンケート全体からも「体を動かす機会の不足」が指摘されております。この点、何ができるか、今後職員で検討したいと思います。
- うちの子は不得手なことが多く、図工の絵もそのひとつなのですが、T先生はこちらの相談にも適切に対応して下さい、大変感謝しています。
- ありがとうございます。いただいたコメントを励みに、職員一同職務に精励いたします。
- そうじの時間に場所によっては、砂の多いところをそうじしていると聞きました。アレルギーを心配していますので、砂を吸い込むことが多い場所をそうじする場合は、マスクを着用させたいと思っています。その点で少しマイナスのBにさせていただきました。（ドバイに来てから変な咳をすることが多いため）”
- 中庭のそうじなど、確かに埃っぽい中での掃除は私も気になっておりました。先生方と話題にしてみました。学校でマスクを用意して一斉につけさせるのは管理の面での困難さがあります。一方、ご家庭でマスクを用意していただき、つけさせるのは全く構いませんので、使ったマスクの始末までを含めてご配慮いただければ有難く存じます。
- 年齢的にますます難しい時であるが、強く叱られる、何度も続けて叱られる、子どもに理不尽と思える叱り方も多々ある様で、委縮ぎみ、また正直に自分の意見が発言できない場面が増えている様子に思われる。まれにみる多国籍文化の中、現地校以外は、インド人学校としか交流がないのは、もったいない気がします。また、ECと外国語及びイマージョンの授業がいずれも中途半端に思え、吸収の早い子供達に正しい英語（含む発音）がなされていない。またECが「英語」となっているのがもったいなく思う。会話なのか英語なのか…
- ご指摘の数々、職員で共有いたしました。英語教育については、英語に関わる先生方でプロジェクトチームを作り、習熟度別や複数学年をまたがったの授業、T.T.など多方面からの視点で検討し、次年度4月から実施できるように検討を進めます。

(次号に続く)